

食料供給基地北海道において、農地への還元(すき込み)を主な利用としてきた農業残渣等の地域資源について、付加価値を生む新たな利用技術等の活用に向けた行動変容を後押しし、更なる循環活用や最大活用により環境負荷の軽減を図り、持続可能な農林水産業の展開に貢献する。

## 背景・課題

- ・食料の安定供給に加え、農林水産業の持続的発展を図るためには、資源の循環活用や地域資源の最大活用等を通じて、環境負荷の軽減を図る必要があるが、北海道では地域の労働力不足、運送能力の低下から農作物の非食用部(稲わら、もみ殻など)の利用が立ち後れている状況。
- ・近年では、温室効果ガスの発生抑制のため、稲わらをほ場外に搬出して利用するなど新たな対応も求められている。
- ・一方、国産飼料に立脚した畜産への転換に向け、エコフィード等の利用拡大が求められる中、乳用牛の約6割を占める北海道の役割は大きい。
- ・今後は、付加価値を生む新たな利用技術等を活用し、慣行利用にとどまらない新たなリサイクルの取組に向けた行動変容が必要である。

## 上記課題解決に向けた方策

地域の特性(営農形態、距離等)を元に、地域資源と効果的な活用方法を組み合わせた「地域資源リサイクルプラン」により意識改革、行動変容を図り、導入時の課題、留意点等を整理した「手引き」により具体の検討を支援することで、地域資源の最大活用を推進し、安定的な農業生産と環境負荷の軽減を両立することで、食料安全保障を支える農林水産業の持続的な展開を推進する。

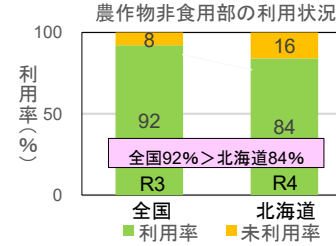
## 調査内容

- 現況調査
  - ・農業残渣等の地域資源の状況把握
  - ・農業残渣等の地域資源の活用事例調査

- リサイクルプランの検討
  - ・収集システムの検討に向けた現地調査
  - ・リサイクルプランの概定



## 有効活用が可能な地域資源(バイオマス)



出典:バイオマス活用推進基本計画(第3次)及び北海道バイオマス活用推進計画評価報告書(R5.9北海道)から引用



稲わら等の非食用部や規格外作物

食品加工残渣

## 課題検討

- ・需要量の把握
- ・集積、搬送方法の効率化
- ・コントラクター等の活用
- ・保存方法や施設整備
- ・関係者の役割分担

「地域資源リサイクルプラン」  
・地域資源と新たな利用技術との効果的な組合せによる代表的なプランを作成

## 付加価値を生む新たな利用技術

- ・バイオ炭
- ・飼料化(エコフィード等の活用)



- ・エネルギー活用
- ・ペットフード etc

「利活用の手引き」  
・導入時の留意点を取り纏めた手引きと合わせて横展開

多様なリサイクル手法の活用により地域資源を最大活用